

2003.6.19 特別講演会「戦争広告代理店」の著者に聞く

2002年に『ドキュメント戦争広告代理店』を刊行し、ボスニア戦においてPR会社が国際世論や国連を動かし、戦争の流れをつくったという「戦争の民営化」の実態を明らかにしたのは、NHKスペシャル『民族浄化』を製作したNHKのディレクターであった。戦争の時代におけるメディアや情報操作の問題が浮かび上がる折に、著者に同書の成り立ちや取材のこと、製作秘話などを語ってもらった。(企画・進行は中山)

COE特別講演会2003

戦争広告代理店

の著者に聞く

—情報操作とボスニア紛争

講談社 2002

講演者：高木 徹

NHKディレクター。自ら手掛けたNHKスペシャル「民族浄化～ユーゴ・情報戦の内幕」を下地に、米国PR会社が紛争時のボスニア・ヘルツェゴビナ政府の外交からマスコミ対応、大統領の演説原稿作成までを手掛けていた実態を描き出した。講談社ノンフィクション賞、新潮ドキュメント賞受賞。

コメンテーター：西谷 修（東京外国語大学大学院教授）

司会：中山智香子（東京外国語大学大学院助教授）

■入場無料

日時：2003年6月19日（木）16:30 - 18:30

会場：研究講義棟2F 226教室

■問合せ：東京外国語大学大学院共同研究室

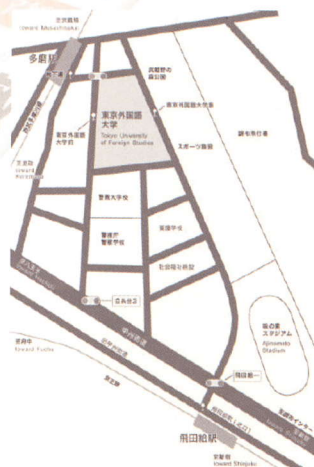
府中市朝日町3-11-1

tel/fax 042-330-5439

daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp

■アクセス

- ・JR中央線「武蔵境」で西武多摩川線に乗換「多磨」下車徒歩3分
- ・京王線「飛田給」下車、京王バス「外語大東」



主催：東京外国語大学大学院地域文化研究科

21世紀COEプログラム

表象文化班

21世紀地域文化研究班

2003.10.4-5 シンポジウム「世界システム」の変容と「地域研究」の再定義

2002年からスタートした21世紀COE「史資料ハブ地域文化研究拠点」プログラムの一環として、「世界システムの変容」、「地域研究の再定義」、「文化」概念の脱構築をテーマとするシンポジウムを実施した。(企画は上村)

COEシンポジウム

世界システムの変容と 地域研究の再定義

COE Symposium

.....第1日目.....

[問題提起]世界システムの変容と「地域研究」の再定義 上村忠男

[第1部]帝国主義と地域研究 (司会)西谷 修
報告1:植民政策学から地域研究へ 臼杵 陽
報告2:バルカン史の現場から 佐原徹哉
報告3:帝国論の新展開 水嶋一憲
コメンテーター:米谷匡史+篠原 琢+中山智香子

.....第2日目.....

[第2部]「文化」概念の脱構築 (司会)宮崎恒二
報告1:「アジア」という語り 孫 歌
報告2:B・アンダーソン『想像の共同体』再考 井口由布
報告3:文化人類学の経験が教えるもの 太田好信
コメンテーター:岩崎 稔+藤井 毅+真島一郎

■日時:2003年10月4日(土)13:00~18:00
5日(日)13:00~18:00

■場所:東京外国語大学府中キャンパス管理棟中会議室

■問合せ:東京外国語大学大学院共同研究室
府中市朝日町3-11-1
tel/fax 042-330-5439
daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp

■アクセス
・JR中央線「武蔵境」で西武多摩川線に乗換「多磨」下車徒歩3分
・京王線「飛田給」下車 京王バス「外語大東」

主催:東京外国語大学大学院地域文化研究科
21世紀COEプログラム

2003.10.17-19 映画上映&シンポジウム「沖縄・未来のドキュメンタリー」

「沖縄特集・琉球映像烈伝」のプログラムを組んだ山形国際ドキュメンタリー映画祭の協賛で、アテネ・フランセ文化センターと東京外大キャンパスを使って三日間にわたり、「沖縄・未来のドキュメンタリー」と題する映画祭とパネル・ディスカッションを行った。「イラク民主化」を掲げて米英軍がイラク戦争をしかけ、日本やとりわけ沖縄が「占領と民主化」のモデルとして引き合いに出された時期だったが、戦後に集積された多様な沖縄のドキュメンタリーは、まさにアメリカ軍による「占領と民主化」という世界の「未来」をあらかじめ映し出すものだった。その映像が折り重なる歴史の特異点で、過去と未来とが同時に論じられた。

(企画は西谷・上村・中山)

東京外国語大学 COE 史資料ハブ地域文化研究拠点プログラム

《沖縄 2003、未来のドキュメンタリー》

共催：山形ドキュメンタリー映画祭東京事務所（山形ドキュメンタリー映画祭）

APO（アートプロデュース・オキナワ）

協力：アテネ・フランセ文化センター

映画上映とパネル・ディスカッション

時：2003年10月17日（金）・18日（土）

会場：アテネ・フランセ文化センター＋2003年10月19日（日）

東京外国語大学マルチメディア教室

日本の内にあって内にはない沖縄は、地上戦、占領と軍政、自立の夢と日本への再統合を経て、20世紀における国民国家の世界の「エッジ」として存在し続けてきた。そこにはあらゆる意味で、日本が見ようとしなかった日本の姿がある。そしていま、沖縄はアメリカによる「占領と民主化」の神話の実験地として、21世紀世界の設計図の原イメージになろうとしている。沖縄では想像力すらドキュメントである。溢れかえる50年のドキュメンタリー、精選されたこの映像群から、われわれは日本の、そして世界のいかなる未来を読み取ることができるだろうか。

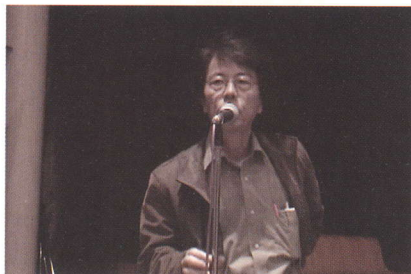
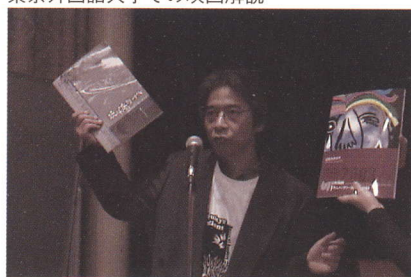
混乱の世界におくる圧巻の超絶ドキュメンタリー企画！！

(監修：仲里効)

アテネ・フランセ文化センターでのパネル



東京外国語大学での映画解説





沖縄、未来のドキュメンタリー

東京外国語大学21世紀COE史資料ハブ地域文化研究拠点主催

2003年10月17日(金)、18日(土)、19日(日)

戦争、占領と軍政、再生の夢と日本への再統合。「エッジ」としての沖縄には、日本が見ようとしな
みずからの姿がある。21世紀初頭のいま、沖縄は「占領と民主化」の最初の実験地として、グローバ
ル世界の設計図の原イメージになっている。破壊の暴力、国家と市場、それに抗して甦る生。50年の
溢れる映像の中からわれわれはどのような未来を望み見るのか。

場 所：アテネ・フランス文化センター(17日、18日)
東京外国語大学・研究講義棟1階マルチメディア教室(19日)
内 容：※詳しくは裏面をご覧ください。

10/17 12:00-20:30 映画上映(解説付)

10/18 12:00-17:00 映画上映

17:15-19:45 パネル・ディスカッション

仲里効(APO)、森口聡(ドキュメンタリー作家)、
上村忠男(東京外国語大学)、中山智香子(東京外国語大学)
司会：西谷修(東京外国語大学)

10/19 12:00-18:00 ビデオ上映(随時解説と討論)

問合せ：東京外国語大学大学院共同研究室(506)
府中市朝日町3-11-1 tel&fax:042-330-5439
daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp

共 催：山形ドキュメンタリー映画国際実行委員会
アートプロデュース・沖縄



山形国際映画祭 山形ドキュメンタリー映画祭2003

沖縄、未来のドキュメンタリー

上映プログラム(多少の変更があるかもしれません)

10/17(金) 12:00-20:30(休憩含む)

1)「真日本」展「南進」の事実

「地球の風物」(1940/16V/監修:柳田泉・式場隆三郎/13分)

「南の島・琉球」(1940/16V/11分)

「沖縄」(1942/35V/14分)

「海の民 沖縄島物語」(1940/35V/27分)

2)記録プロパガンダ

「ドイツ占領プログラムと沖縄戦」(昭和戦争博物館/35V/15分)

「戦艦」のバノラマ」(8mm/50分)

3)「アメリカ世」のプロモーション

「琉球ニュース・セレクション」(USCAR・CIE/Ram/70分)

4)「琉球」への憧憬

「沖縄・祖国への道」(南方同盟連合会会報 毎1映画社制作/16V/20分)

「石の詩」(11尺版/16V/41分)

5)「アメリカ」と日本との関係

「沖縄列島」(4mm/16V/90分)

6)「ヤマト世」の源流と「沖縄」の創造

「琉球を呼ぶ」(8mm/16V/20分)

「ヤマト・スティーヴ」(琉球/16V/35分)

10/18(土) 上映12:00-17:00(休憩含む)

7)重なりあふ声、結まりあふ心

「オキナワの少年」(新城市/1983/35V/117分)

8)「島」の代理と「戦争」の運営

「沖縄やぐら戦争」(中山自伝/1976/35V/96分)

9)島口島の社会

「沖縄の18歳」(山形1986/16V/25分)

「かたき土を耕りて」(山形1987/16V/25分)

●パネル・ディスカッション(17:15-19:45)

ディスカッション:仲里効(APO)、森口聡(ジャーナリスト)

上村忠男(東京外国語大学)、中山智香子(東京外国語大学)

司会:西谷修(東京外国語大学)

10/19(日) 12:00-18:00(随時解説と討論)

1)「ヤマト世」の源流から、語り継がれる「イサヤ世」、

幻の「ヤマト」・「ヤマト」映画まで、必見・秘蔵・貴重映像のシリーズ

「「ヤマト」映画でつづる沖縄戦」(1985/17mm/16V/37分)

「島口つづり」(比定史・琉球低地記録学会/2003/ビデオ/60分)

「起き上がる琉球」(USCAR/Ram/30分)

「船出く沖縄編」(1992/16V/25分)

「IYA SAYA HAYAI」(オムニ・ビデオ/ビデオ/27分)

「島口島の源流」(オムニ・ビデオ/ビデオ/1986/124分)

●ディスカッション:仲里効、上村忠男、中山智香子、西谷修

■アクセス

〒101-0062 東京都千代田区神田神保町1-11

4階 アテネ・フランス文化センター

TEL:03-5591-4336(13:00-20:00)

http://www.athenes.net/outreachcenter

東京外国語大学

〒163-8534 東京都豊島区国分寺2-1-1

大学教員研究室

TEL:03-5432-5430(10:00-17:00)

JR中央線「国分寺」駅西口徒歩10分(徒歩15分)

京王線「国分寺」駅下車 京王バス「国分寺大前」

http://www.tufs.ac.jp/comm/office/office.html

東京外国語大学

〒163-8534 東京都豊島区国分寺2-1-1

大学教員研究室

TEL:03-5432-5430(10:00-17:00)

JR中央線「国分寺」駅西口徒歩10分(徒歩15分)

京王線「国分寺」駅下車 京王バス「国分寺大前」

http://www.tufs.ac.jp/comm/office/office.html

東京外国語大学

〒163-8534 東京都豊島区国分寺2-1-1

大学教員研究室

TEL:03-5432-5430(10:00-17:00)

JR中央線「国分寺」駅西口徒歩10分(徒歩15分)

京王線「国分寺」駅下車 京王バス「国分寺大前」

http://www.tufs.ac.jp/comm/office/office.html

東京外国語大学

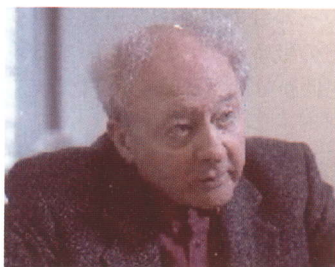
〒163-8534 東京都豊島区国分寺2-1-1

大学教員研究室

TEL:03-5432-5430(10:00-17:00)

JR中央線「国分寺」駅西口徒歩10分(徒歩15分)

2003.10.26 世界化を再考する—P.ルジャンドル氏を迎えて



フランスの法制史の碩学であり、そのアフリカ経験から法学に精神分析を導入し、西洋的規範空間のあり方を批判的に解明して、いわゆるその普遍性を解体し、人間を「話す生き物」として捉えることから主体とその社会の形成を独自の観点から洗いなす研究を、「ドグマ人類学」として展開するピエール・ルジャンドル氏をむかえ、その研究の要諦と課題、および現代世界におけるその意義について講演いただいた。また、「ドグマ人類学」の可能性について若手研究者の発表を中心にワークショップを行った。(企画、西谷)

ルジャンドル講演



シンポジウム



1) 世界化を再考する—ピエール・ルジャンドル氏を迎えて

日時：2003年10月26日(日) 13:30-17:30(開場13:00)

場所：東京外国語大学研究講義棟115教室

第一部 ピエール・ルジャンドル講演(同時通訳付き)

13:30 紹介 西谷 修(東京外国語大学)

13:45 ピエール・ルジャンドル講演

「世界化の裏面—西洋人が西洋について知らずにいる事柄」

15:00 コメントと討論

コメンテーター：大澤真幸(京都大学、社会学)

渡辺公三(立命館大学、文化人類学)

第二部 ビデオ上映

16:00 『西洋的人間の制作』(ピエール・ルジャンドル制作1996)

フランス語、日本語解説つき

17:00 質疑応答

17:30 終了

2) ドグマ人類学ワークショップ—ドグマ人類学の可能性 I

日時：11月3日(月) 14:00-18:00

場所：東京外国語大学 国際コミュニケーション演習室(402隣り)

発表者 嘉戸一将(京都大学、法思想)

佐々木中(東京大学大学院、宗教学)

橋本一佳(ナント大学大学院、表象文化)

コメンテーター：ピエール・ルジャンドル

3) ドグマ人類学ワークショップ—ドグマ人類学の可能性 II

日時：11月6日(木) 16:00-18:00

場所：東京外国語大学

報告：ピエール・ルジャンドル

《ルジャンドル氏のその他の講演等》

■ピエール・ルジャンドル自伝会館講演

日時：2003年10月27日(月) 18:00-20:00

場所：東京目黒会館1Fホール

「語る動物」とは何か—人間のモンタージュを考える

■国立民族学博物館：東京都立大学・東京外国語大学 連携研究

《グローバル化の中の国家・民族・宗教》

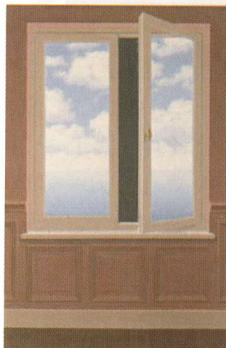
特別ワークショップ「ドグマ人類学の可能性—人間、宗教、国家」

日時：2003年10月30日(木) 14:00-18:00

場所：国立民族学博物館

講師：P.ルジャンドル、中山電一他

お問合せ
東京外国語大学会場については大学院共同研究室
(042-330-5439/dai@akutai-kyokai.ac.jp)
その他の講演等は各会場へ



世界化を 再考する

P・ルジャンドル氏を迎えて

東京外国語大学COE史資料ハブ地域文化研究拠点

21世紀地域文化研究班主催シンポジウム

2004.1.27 福元満治講演会「アフガニスタンは今、中村哲とペシャワール会」

2001年に招聘した中村哲氏を支え、福岡を拠点にNGOペシャワール会の実質的な運営を担う福元満治氏をお迎えし、アフガニスタン情勢のその後と、「テロとの戦争」でさらに荒廃する現地でのペシャワール会の活動、また2004年1月に刊行されたばかりの福元氏の著書『伏流の思考』について、ご講演いただいた。(企画・進行は中山)





アフガニスタンは今、 中村哲とペシャワール会

図書出版石風社・ペシャワール会

講演 福元満治氏

コメント 西谷 修(東京外国語大学大学院)
司会 中山智香子(東京外国語大学大学院)

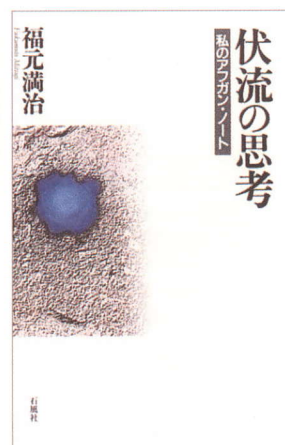
日時:2004年1月27日(火) 16:30~18:00
場所:東京外国語大学研究講義棟227教室

問合せ:東京外国語大学大学院共同研究室
府中朝日町3-11-1 TEL/FAX 042-330-5439
daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp

(ふくもと・みつじ)

1981年、福岡市に図書出版石風社を設立。
初期の段階から中村哲医師と医療NGO・ペシャワール会に関わり、
広報担当責任者を務める。





東京外国語大学大学院 COE プログラム・史資料ハブ地域文化研究拠点の21世紀地域文化研究班（第I分科会、代表：西谷修）は、2004年度の研究活動の軸としてグローバル世界のメディア状況をテーマにとりあげた。

その主たる理由は、とりわけ今世紀に入ってグローバル世界におけるメディアの重要性がさまざまな局面で際立ち、今日のメディア状況の批判的分析が、地域研究全般あるいはグローバル世界の研究にとって必須の要件になると考えたからである。

ここで扱うメディアは、メディア全般というより主としてジャーナリズム、つまり世界各地の現況に関する情報をわれわれに送り届ける報道メディアである。グローバル世界の把握は、そのようなメディアによる情報や世界表象（地域的であれ包括的であれ）の供給なしには成り立たない。ところが現在のメディア状況は、われわれの世界理解に資するようなかたちで機能しているとはいいがたく、このことはとりわけ9・11以降、世界に「新しい戦争」のレジームが敷かれるに及んで、いっそう深刻な問題となってきた。戦争の遂行がメディアと切り離せないのは周知のことだが、現代の戦争が圧倒的な力の差を前提にした「非対称的」戦争であることや、その力が「文明」の名のもとに行使されることとも連動して、巨大化したメディア機関が供給する情報にはあらかじめ大きなバイアスがかかっている。グローバル化といわれる状況のなかで、情報そのものは溢れるほどあるが、それがどこでどのような観点から、またどんな条件の下で製造され供給されるのかを考えると、実はメディアはわれわれと「現場」とを媒介するというより、「現場」のありようやそこに露呈した問題を、むしろ見えなくする「壁」として機能していると言わざるをえない。つまりそれは、「文明」の価値観や「文明」的な世界把握の光に照らした、いわばユニラテラルな情報であり、われわれをその観点のなかに隔離する「分離壁」として機能しかねない面をもっている。

「イラク戦争」から一年を経て、われわれはこの問題をたんに学問的研究としてではなく、情報を作り受けとるというメディアの実践の現場に目を向けながら、公開で検討してゆく場を設定することを試みた。けれどもこれは広範な領域にわたる課題であり、われわれがこの問題に効果的に取り組むために焦点化したのは、グローバル・メディアの対極にあってそれにパフォーマンス的な異議を提起しつつ、独自の情報活動を行うフォト・ジャーナリズムであり、またそれとは違う局面で、グローバル・メディアの現況にジオポリティクスを喚起するかたちで大きな波紋を生み出した、アラブ世界の衛星テレビ局アルジャジーラの活動だった。それは、この二つが、現在のグローバル・メディアの状況を背後から照らし出すきわめて重要な働きをしていると思われたからである。

以上のような関心から、われわれはまず6月に「メディア・ウォールを突き崩す」と題した写真展とシンポジウムを開催した。招聘したのは、ちょうど2003年3月に創刊されたフォト・ジャーナリズム月刊誌『DAYS JAPAN』の責任編集者で、長らくパレスチナやチェルノブイリで活動してきた広河隆一氏と、フリー・ジャーナリストとしてイラク入りし、現地の武装集団による拘束を経験して帰国後間もない安田順平氏で、両氏の経験を語ってもらうことから、「新たな戦争」の時代の「メディア・ウォール」の諸問題に

について議論した。

そして、フォト・ジャーナリズムの提起する問いかけを発展させ、11月には6月の企画で前提として考えられていた「情報のユニラテリズム」とメディアをめぐる「ジオポリティクス」の問題系を本格的にとり上げるために、「視角の地政学——メディア・ウォールを突き崩す・Ⅱ」と題する拡大イベントを行った。

ここでは、カタールの衛星テレビ局アルジャジーラの主要ジャーナリスト、ハッサン・イブラヒーム氏と、世界的に著名なアメリカの「ウォー・フォトグラファー」、ジェームズ・ナクトウエイ氏、それに広河隆一氏を招聘し、またイラク戦争における世界のメディアの報道状況、とりわけアメリカ・メディアのリサーチを行ったNHK放送文化研究所の永島啓一氏、それに東京大学情報学環・学際情報学府で記号論的なメディア研究を創出している石田英敬氏を招いて、グローバル・メディアの現在について、フォト・ジャーナリズムについて、さらにはメディアの全体状況をについて、多角的な議論を行った。同時に、ナクトウエイ・広河両氏の最近の仕事を示す代表的な作品約100点の写真展も開催したが、これは前例のないインパクトのある充実した展示会となった。

この二つの催しは、学問的な関心をジャーナリズムの現場の経験と結びつけて議論し、同時にその作業を公開することで公共的な議論の広がりにも結びつけてゆこうとする試みでもあり、学内外から多くの人びとの参加をえて、手ごたえのある反応をうることもできた。その意味で、大学における研究を現場の実践活動に結びつけ、そこで生み出される成果をじかに社会に還元するという、新たな研究実践のモデル作りでもあった。

しかしながら、そのような形式のなかで議論を深めることには制約もあり、「視角の地政学」のシンポジウムにおいて、総合討論や会場からの発言によって取り上げられたいくつかの重要な論点についてさらに議論を尽くすため、3月初旬にシンポジウム参加者と会場からの発言者（批評家の多木浩二氏、東京大学情報学環の吉見俊哉氏）を招いて補足的な研究会を行い、「ジオポリティクス」の概念について、メディアとジオポリティクスの関わりについて、さらにはメディア状況全般とそこで焦点化される「〈人間〉の戦場」のエシックスについて論じ合った。

そこでとり上げられたテーマ、とりわけ重要な「視角」のトポスとなる「〈人間〉の戦場」というテーマは翌年度の活動に引き継がれ、2005年6月の写真展+シンポジウム「〈人間〉の戦場から——視角の地政学・Ⅱ」へと発展した。付け加えておけば、この企画でとり上げられたテーマは今度は10月の総合企画「グローバル化と奈落の夢」へと発展的に引き継がれ、この研究をベースにした独自の「グローバル・スタディーズ」の構想を生み出すという、きわめて生産的な展開を見せている。

2004.6.4 メディアウォールを突き崩す《9・11後の世界とフォトジャーナリズム》

With simultaneous translation in English

The World After 9・11 And Photo-journalism

~breaking the media wall~

Media wall: Today, the media overflowing provides images and messages.
Paradoxically, facts are rather concealed by these massive pieces.
What is the "real"?
We discuss this issue to break the wall and to open the "real" in the world.

Speaker:
Mr. Ryuichi Hirokawa (Days Japan)
Mr. Junpei Yasuda (Journalist)

Commentator: Prof. Osamu Nishitani (TUFS)
Chair: Ass Prof. Chikako Nakayama (TUFS)

4 June 2004 (Fri) 16:30-18:00
Tokyo University of Foreign Studies
Research and Lecture building 1F Rm 115

Photo-Exhibition
3 June (Thu) 13:00~18:00
4 June (Fri) 10:00~18:00

Inquiries: Tokyo University of Foreign Studies <Rm506>
Asahicho 3-11-1, Fuchu-shi, Tokyo
Tel/Fax: 042-330-5439
Email: daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp
Access: Tama station (Seibu-Tamagawa line)



2004.11.3,4 メディアウォールを突き崩すⅡ《視覚の地政学》

東京外国語大学大学院 21 世紀 COE プログラム史資料ハブ地域文化研究拠点
21 世紀地域文化研究班 主催

国際シンポジウム／セミナー／写真展

視角の地政学 メディア・ウォールを突き崩すⅡ

The Geopolitics of the Visual Breaking the Media Wall. Part Ⅱ

《ジェームズ・ナクトウェイ／広河隆一写真展》

11 月 1 日～4 日 10:00～18:00

場所：東京外国語大学研究講義棟ガレリア

《パネル・ディスカッション》

11 月 3 日（水、祭日） 10:00～18:00

場所：東京外国語大学研究講義棟 101 教室

第 1 セッション：ブロードキャスティング 10:00～12:30

ハッサム・イブラヒーム（アルジャジーラ）＊

永島啓一（NHK 放送文化研究所）

石田英敬（東京大学、情報記号論）

第 2 セッション：フォト・ジャーナリズム 14:00～16:10

ジェームズ・ナクトウェイ（Ⅶ）

広河隆一（DAYS JAPAN）

総合討論：戦争とメディア～視角の地政学 16:30～18:00

司会・コメント：西谷修／中山智香子（東京外国語大学）

＊終了後、大学特別食堂にて懇親会（要、予約）

《セミナー》

11 月 4 日 13:00～17:00（入場定員 50 名、要予約）

場所：東京外国語大学事務棟 2 階中会議室

戦場の写真をめぐって～J・ナクトウェイとともに

第 1 セッション PCS セミナー 13:00～14:30

第 2 セッション 自由討論 15:00～17:00

【企画・運営】

東京外国語大学大学院地域文化研究科 国際協力講座／国際文化講座

西谷修／中山智香子／阿部賢一

問い合わせ先：東京外国語大学大学院共同研究室

Tel/Fax 042-330-5439, daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp

【協賛】（株）写真らしく／（有）フォネラマ

主催：21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」
協賛：写真らしく

同時通訳(英語)あり With simultaneous translation in English
予約不要・入場自由

視角の地政学

The Geopolitics of The Visual

～メディアウォールを突き崩す2～



Photo by J.Nachtwey

2004年11月3日(水)

パネルディスカッション

セッション1〈報道〉10:00～

セッション2〈写真〉14:00～

会場：東京外国語大学研究講義棟〈101〉

3 Nov. 2004 (Wed)

Panel Discussion

Session 1 〈Broadcasting〉10:00～

Session 2 〈Photography〉14:00～

Tokyo University of Foreign Studies 1F Rm 101

●パネリスト〈Panelists〉

J.ナクトウエイ J.Nachtwey (VII)

広河 隆一 R.Hirokawa (Days Japan)

S.カディール S.Khader (Aljazeera)

永島 啓一 K.Nagashima (NHK放送文化研究所)

石田 英敬 H.Ishida (東京大学)

●司会・コメンテーター〈Chairpersons〉

西谷修 O.Nishitani／中山智香子 C.Nakayama (東京外国語大学)

セミナー(Seminar)

～戦争報道(War Journalism)～

2004年11月4日(木) 13:00～

東京外国語大学事務棟 2F

4 Nov. 2004 (Thu) 13:00～

Administration Office 2F

写真展(Photo-Exhibition)

2004年11月1日 13:00～11月4日 18:00

東京外国語大学研究講義棟ガレリア

1 Nov. 13:00 - 4 Nov. 18:00

Galleria

問合せ：

東京外国語大学大学院共同研究室 東京都府中市朝日町3-11-1

Tel/Fax: 042-330-5439 Email: daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp

JR中央線「武蔵境」で西武多摩川線乗り換え、「多磨」駅下車徒歩3分

京王線「飛田給」下車、京王バス多磨ゆき「東京外国語大学」前

Inquiries: Tokyo University of Foreign Studies 〈Rm506〉

Asahicho 3-11-1, Fuchu shi, Tokyo

Tel/Fax: 042-330-5439

Email: daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp

Access: Tama station (Seibu-Tamagawa line)

2004年11月3日 シンポジウム



会場の様子



第一セッション

2004年11月4日 ワークショップ



第二セッション



第三セッション



質問に答えるナクトウェイ氏



PCSの学生も多数参加



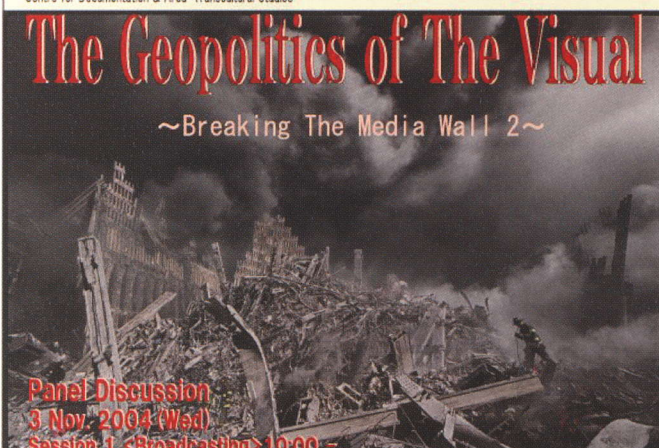
同時開催写真展

21st Century Centre of Excellence Program
"Centre for Documentation & Area-Transcultural Studies"

With simultaneous translation in English

The Geopolitics of The Visual

~Breaking The Media Wall 2~



Panel Discussion
3 Nov. 2004 (Wed)
Session 1 <Broadcasting> 10:00 -
Session 2 <Photography> 14:00 -
Tokyo University of Foreign Studies 1F Rm 101

●Panelists
J.Nachtwey (VII)
R.Hirokawa (Days Japan)
S.Khader (Aljazeera)
Guest (NHK)
H.Ishida (The University of Tokyo)

●Commentators/Chairpersons:
Prof. O. Nishitani (TUFS)
Prof. C. Nakayama (TUFS)

Seminar
~War Journalism~
4 Nov. 2004 (Thu) 13:00 -
Administration Office 2F

Photo-Exhibition
1 Nov. 13:00 - 4 Nov. 18:00
Galleria

Inquiries: Tokyo University of Foreign Studies <Rm506>
Asahicho 3-11-1, Fuchu-shi, Tokyo
Tel/Fax: 042-330-5439
Email: daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp
Access: Tama station (Seibu-Tamagawa line)

2004.11.19 沖縄記憶と映像Ⅴ『島クトゥバで語る戦世』

これまでの「沖縄・記憶と映像」シリーズを引き継いで、世界が再び戦争体制の下におかれ、日本もまた戦時体制へと再編されようとする時期に、太平洋戦争時、日本で唯一の地上戦の舞台となった沖縄の、生き残った人々が生の「島クトゥバ」で語った「戦世」を記録し続けるドキュメンタリー映画の、最新編集6時間版を一挙上映。製作者、比嘉豊光氏と仲里効氏を招いてディスカッション。(企画、西谷・中山)

『島クトゥバで語る戦世』(琉球弧を記録する会製作)

全編6時間一挙上映

日時：11月19日(金) 10:30~19:40

場所：東京外国語大学226番教室

10:30~12:30 第1部、第2部上映

12:30~13:20 昼休み

13:20~15:20 第3部、第4部上映

15:20~16:00 休憩およびトークpartⅠ

16:00~18:00 第5部、第6部上映

18:10~19:40 トークpartⅡ

トーク・セッション

比嘉豊光(写真家、琉球弧を記録する会)

仲里効(APO代表、『EDGE』編集長)

主催：東京外国語大学大学院21世紀COE史資料ハブ地域文化研究拠点

21世紀地域文化研究班(代表 西谷修)

21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」
21世紀地域文化研究班

記憶と映像Ⅴ

琉球弧を記録する会制作

島クトゥバで語る戦世

2004年11月19日(金) 全編上映会

〈会場〉東京外国語大学 226教室
〈上映会〉10:30~17:30 (休憩 12:30~13:30)
〈トーク〉18:00~20:00

ゲスト
比嘉 豊光 (写真家・琉球弧を記録する会)
仲里 効 (写真家・APO代表・『EDGE』編集長)
他一名

司会・コメンテーター
西谷修(東京外国語大学)

問合せ：東京外国語大学大学院共同研究班
東京都府中市朝日町3-11-1
Tel/Fax: 042-330-5439
Email: daipanki@kyo@fu.tsu.ac.jp

アクセス：JR中央線「文京駅」で西武多摩川線乗り換え、「多摩」駅下車徒歩3分
京王線「有田站」下車、京王バス多摩ゆき「東京外国語大学」前

